【評価調書様式４】

投資事業評価調書（事後評価）

部課室名	まちづくり局公園緑地課	記入責任者職氏名 （担当者氏名）	公園緑地課長　橘　俊光 （整備係長　塚原　淳）	内線	4475 (4486)

事業種目	公　園	事 業 名	都市公園事業
所在地	川西市　国崎		

事　業　の　目　的	事　業　内　容
当公園は、知明山周辺の良好な自然環境の保全を第一の課題に、「自然と人の出会いの場」をテーマに、自然学習の場、広域レクリエーションの場を提供することを目的に整備した。	公園面積　A＝　48.2ha ・自然観察の森（ｸﾇｷﾞ林、ｷｬﾉﾋﾟｰｳｫｰｸ、間歩跡、炭焼窯）　A=　約25ha ・森の広場（芝生原っぱ）　A=　約1.5ha ・丘の流れ　L=　210m ・森の遊び場　複合遊具　１式（約1,500㎡） ・ネイチャーセンター　延べ床面積　1,085㎡ ・湖畔の駐車場　76台 ・丘の駐車場　72台(うち3台障害者用)

事業期間				総事業費	約　７２億円
事業着手	昭和５７年度	過去の評価	平成10年度	内用地補償費	約　２３億円
事業完了	平成１３年度		－		

●再評価の結果

自然観察の森を中心とした未供用施設は、環境学習機能を担う本公園の基幹施設となるものであり、平成１２年度の完成を目処に整備を継続する必要がある。

●事業を巡る社会経済情勢等の変化

平成１６年度に環境省が「**里地里山保全再生モデル事業調査**」**地域**として全国で４地域選定したうちの１地域に取り上げられ、環境学習機能を担う本公園の魅力が高まってきている。

↓

一庫周辺地域：
日本一の里山と言われ茶道用の菊炭（池田炭・一庫炭）の産地として数百年の歴史をもち、現在でも薪炭施業が続けられている。

一庫公園：　伐採から炭焼きまでを誰もが見学可能なクヌギ林の再生モデル

↓

・環境学習の場としての魅力アップ
・能勢電鉄、一庫ダムなど、地区内の里山活動の連携
・公園の存在と活動が全国に発信される

●事業の効果等

国土交通省が定めた「都市公園等事業の事後評価の指標及び判断基準（案）」を参考にし、以下の４つの指標を用いて評価する。

● 社会経済情勢の変化【前述】
1. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化
2. 事業の効果の発現状況
3. 事業実施による環境の変化

１．費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

【今回評価の考え方】

① 利用実態調査を実施
■ 来園者の居住地、移動距離、交通手段等をアンケート調査 → 誘致圏の実態を把握

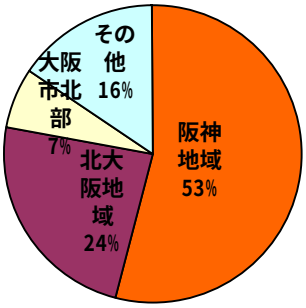
② 実態の誘致圏から費用便益比を算出
（「改訂 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」に参考にして算出）

③ 利用状況の評価
■ 来園者数等の推移（H10～H17）

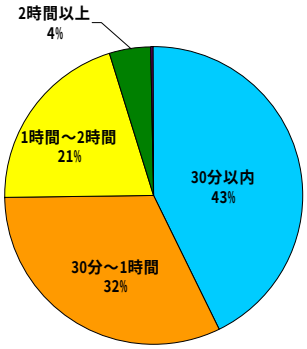
① 利用実態調査の実施

○ 調査日 ： 平成18年9月6日(水),9日(土),10日(日),14日(木),16日(土),10月8日(日)の平日、土曜、日曜の各２日間、計6日間
○ 調査内容： ■基本調査
・属性（性別、年齢、職業、居住地、グループ構成）
・来園手段、所要時間、利用頻度、滞在時間
・来園目的、滞在場所
■その他
・公園の印象、公園に希望するもの、自由意見等
○ 調査結果： 回答者総数 787 人

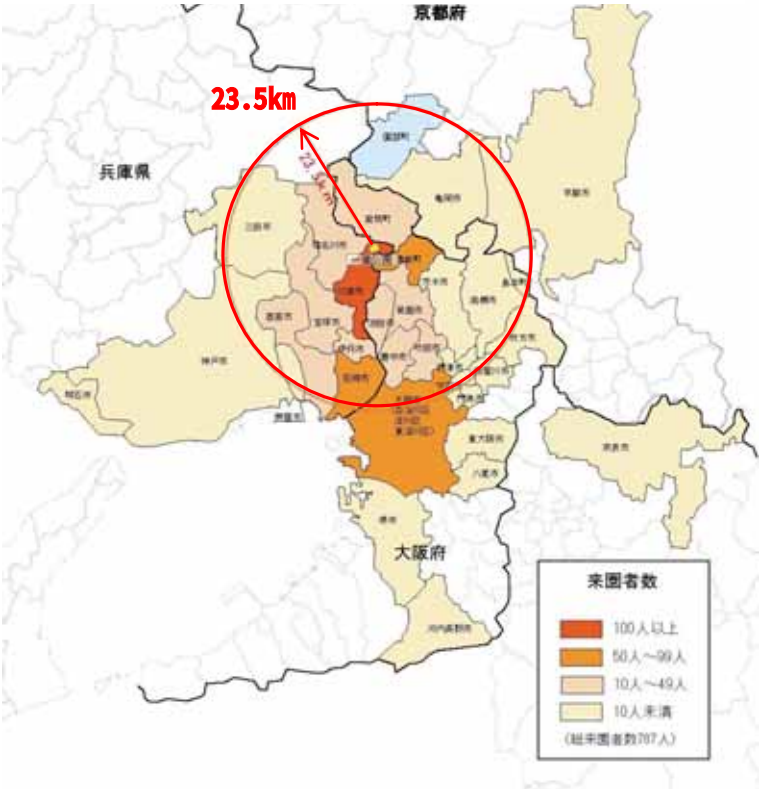
■一庫公園来園者の居住地（図－１）



■一庫公園までの所要時間（図－２）



■利用実態から推定される誘致圏（約 23.5ｋｍ）（図－３）



・来園者の８０％は１時間圏域（半径約 23.5km）に居住

② 実態の誘致圏から費用便益比を算出

表－１　誘致圏 23.5km に基づく費用便益比算出

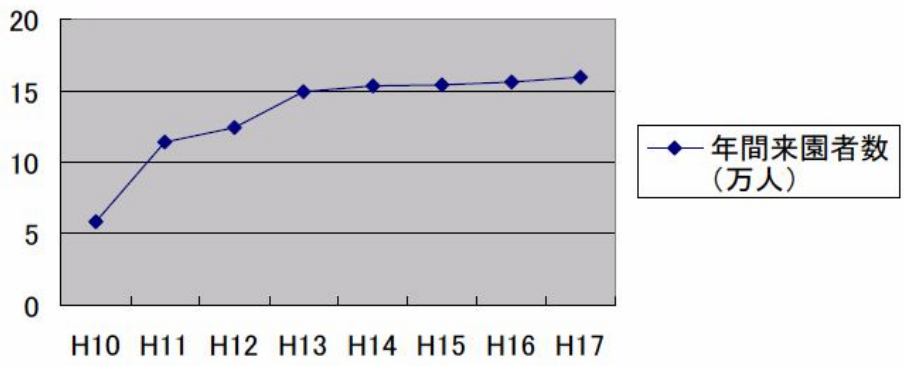
		H18年度	備　考
費用便益比(B/C)		1.55	
	競合公園数	36公園	
	誘致圏域人口	413万人	
	世帯数	164万世帯	
	来園者数	16万人	

一庫公園の利用実績から算出した費用便益比は 1.55 であり、事業効果が発現されている。

③ 利用状況の評価

■ 来園者数の推移

県立一庫公園年間来園者数の推移　（図－４）

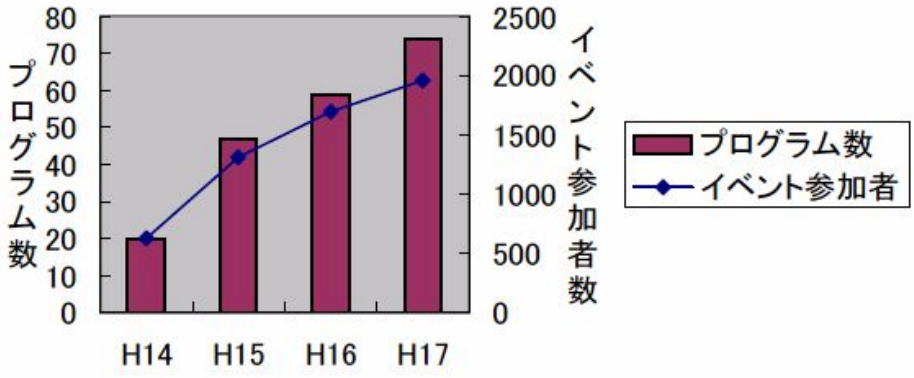


平成 10 年度の当初開園時から来園者数は徐々に伸びてきている

２．事業効果の発現状況

○ 公園の資源を活かした住民自主企画運営プログラム実施状況

県立一庫公園プログラム数とイベント参加者数の推移　（図－５）



○　主なプログラムの事例一覧

		主催者	主なプログラム	頻度
①	i	ひとくらクラブ	台場クヌギの再生プログラム（窯木づくり，炭焼，台場クヌギの萌芽調査，萌芽手入れ）	約20回
	ii	ひとくら青空クラブ	ペットボトルロケット，凧づくり	月1回程度
	iii	きららの森キッチン	食べて学ぶ環境教育	月1回程度
	iv	ひとくら草木染まんすりー工房	草木染め，藍染め	月2～3回
②		一庫公園管理事務所	小学生対象プログラム（一庫公園に生息する野生動物や昆虫の生態，一庫ダム周辺の豊かな自然の生態系）	年数回

○　住民参画プログラムの事例

①－i　クヌギ林再生と菊炭焼（ひとくらクラブ主催）

窯木づくり

炭焼

萌芽調査

萌芽手入れ

①－ii　ペットボトルロケット（ひとくら青空クラブ主催）

ペットボトルロケット

①－iii　食べて学ぶ環境教育（きららの森キッチン主催）

食育教育～さくらの葉のご飯は、とてもいい香り！～(H17.5)

①－iv　草木染め（ひとくら草木染まんすりー工房主催）

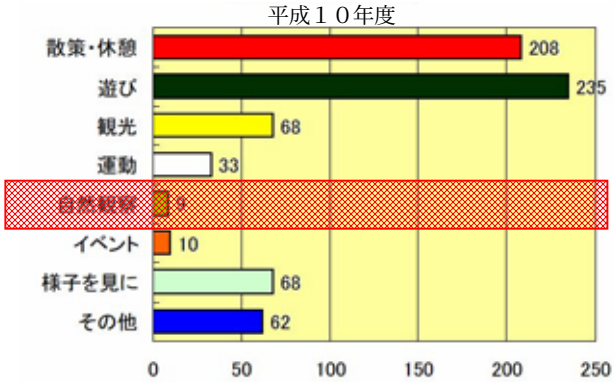
藍染め

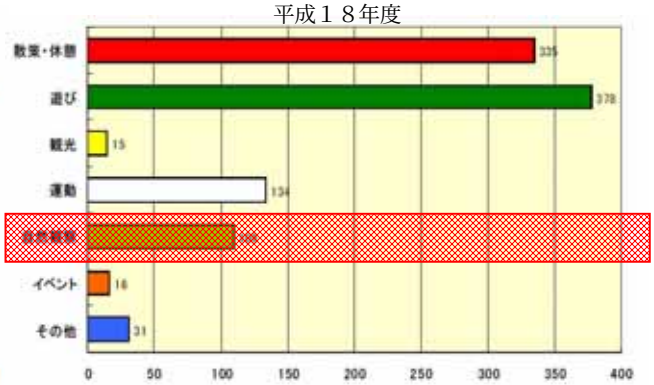
②　小学生向けの環境学習プログラム（一庫公園管理事務所主催）

野生動物の生態(H18.4)

セミの抜け殻調査(H18.8)

○　アンケート結果【来園目的の変化（H10 と H18 の比較）】





自然との共生をテーマとしたプログラムが主流
自然観察を目的とした利用が飛躍的に増大

３．事業実施による環境の変化

① 動植物の環境の保全・創造に関する方策
【住民との連携によるクヌギ林の再生】

平成１４年度から、「ひとくらクラブ」が中心となって、昭和 50 年代から放置されていたクヌギ林の再生に取り組んでいる。

伐採→炭焼→萌芽手入れ→育成のサイクルを通して、自然環境や地域の文化にふれあう場となるとともに、生きた里山景観の形成にも寄与するものである。

・放置クヌギ林の再生
・住民主体による地域風土の維持

ひとくらクラブによるクヌギ林再生活動

② 埋蔵文化財等の保全活用に関する方策
【国崎地区間歩群（近世、近代の生産遺跡）の保全活用】

間歩跡

炭焼窯跡

川西市、猪名川町、豊能町、能勢町を中心としたこの地域は、古来より日本でも有数の銅の産地として知られており、公園内にも１７箇所の間歩跡と６箇所の炭焼窯跡がある。このうち実際に見られる箇所は、９箇所の間歩跡と５箇所の炭焼窯跡であるが、代表的な箇所（間歩跡 2 箇所、炭焼窯跡１箇所）に案内看板を設置し、利用者の観察に配慮している。

この公園内の生産遺産を活用して行こうという声が高まっており、住民参加プログラムにより生産遺跡や植物を観察する自然観察会が行われるなど、活動が始まっている。

・間歩跡や炭焼窯跡等の生産遺跡の保存と学習

４．事後評価結果のまとめ

○社会情勢の変化	○費用対効果分析の算定基礎となった要因	○事業の効果の発現状況	○事業実施による環境変化
「里地里山モデル事業地域」全国４地域の１つに指定	利用実態に基づく 23.5km 圏域での B/C＝1.55	・公園資源を利用した住民自主企画プログラムの活発化 ・環境学習フィールドとして定着	・放置クヌギ林の再生 ・住民主体の地域風土の維持 ・生産遺跡の保存と学習

広域レクリエーションの場、特に環境学習の場として、当初の事業目的を果たしている。